

# 土木技術者のプロフェッショナル像と 土木学会の役割

小林 潔司

土木学会第106代会長



今日ほど、土木技術者の仕事に対して責任と倫理が問われている時代はありません。気候変動や災害リスク等のように、自分の専門分野をはるかに超える複雑で不確実な問題と向き合うことが要求されます。一方、人びとの価値観が多様化したことにより、土木技術者がなすべきことに対して理解がえられない場合があります。

土木技術者には、問題解決にあたり専門的な知識や技術だけでなく、人間としての広い見識が求められています。まさに、土木技術者のプロフェッショナルの知恵が問い直されているのです。実際に、プロジェクトを進めるためには、文系や理系、専門分野に関わらず役に立つ知識が必要とされます。もともと、工学分野の中でも、土木工学は社会・経済や

文化の領域と密接な関係を持つています。そのため、土木技術者には、学際的な分野を総合化し、これまでに以上にプロジェクトを遂行するためのリーダーシップを発揮することが求められています。

土木学会は、これから社会で活躍しようとする若者、現役の技術者、あるいは経験豊富なシニアの方々の間の専門性を超えたコミュニケーション

の場です。活発なコミュニケーションや議論を通じて、これからの土木を担う若者たちに、技術だけではなく技術思想を身に付けて欲しいと思います。土木学会は、これからも常に自由に議論し、教え教えられる場であり続けたいと思います。今後とも、学会を担う広範な会員の皆様のご支援とご協力をお願いする次第です。